

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201778		
法人名	社会福祉法人 愛知慈恵会		
事業所名	一宮市萩の里 グループホーム田苑そよ風		
所在地	愛知県一宮市萩原町東宮重蓮原24番地1		
自己評価作成日	平成29年10月11日	評価結果市町村受理日	平成29年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&JizyosyoCd=2372201778-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①昔の良い暮らしを取り入れた木造建築の佇まいに、季節感溢れる花を植えるなど、少しでも、利用者の気持ちに潤いやゆとりが持てる様な環境に努めています。 ②地域住民の理解とご支援を頂きながら地域交流を大切にしていきたいと思っています。 ③ご利用者、ご家族の絆をモットーに面会時には、居心地の良い空間作りにも努めています。 ④ご利用者の楽しみや生きがい、またはお一人お一人が活躍できる場面が持てるように努めています。 ⑤職員は、いつでも笑顔の対応を心掛け、ご利用者が、和らぐ安定した暮らしが出来る様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	《認め合う気持ち・ゆとり・穏やかな生活》の理念を、共有しご利用者に向け実践に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の馴染みの喫茶店へ出かけている。 ・施設と地域、互いの行事に参加している。 ・地域の方からの野菜の差し入れや庭樹の剪定ボランティア、また消防訓練にも参加してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入所申込み時や地域の方に質問を受けた際には、認知症状の対応や理解についての支援方法の助言をするように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・目標達成計画でもあった《防災訓練》の取り組みについても、ご家族・市役所・地域の方からは、沢山の助言や情報を頂き、運営推進会議で進捗状況や達成に向けた意見交換を行う事ができた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議の出席時に、市役所や包括の職員からは、適切な指導や助言をもらい、日常的にも、質問や相談も気軽に乘って頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・法人内外研修の研修に参加している。また、新人研修については《拘束廃止》をテーマにした研修がある。 ・ご利用者自身が「解放感がある施設」と言ってくれている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者様の対応などについては機会がある度に話し合っている。 ・客観的な視点から問題がある時には、その場で注意し、また会議で取り上げるなど常に防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・ご家族からの要望があり、ご家族も交えて学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前には、契約書・重要説明事項などの書類を元に、ゆっくりと話し合う機会を設けている。 ・介護保険改定等の際には、事前説明の上、ご家族に「同意書」を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・年3回の家族会には、遠方からの親戚も集まり家族以外の交流もある。交流会を通じ、利用者や家族から職員に気さくに意見や要望を言ってもらえる機会でもある。それらを運営に反映させられるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・法人の勤める業務改善運動「QUP運動」は、職員の意見や提案を反映させる運動であり34項目の改善提案数が挙がり実際、効率性のある業務となった。現在も継続中である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の不調サインに気付いた時には、上司にタイムリーな報告を行い適切な対応をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内外の研修カリキュラムが、1年を通して組まれている事もあり、それぞれが学びたいと思う内容の研修に参加し、個々のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・一宮市の施設部会に参加している。 ・法人内部研修での場所などで他部署の職員との意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に事前見学をして頂き、ご利用者の気持ちや、ご家族の要望などを訊くようにしている。 ・事例を用い出来るだけ、ご家族の不安解消に繋げられる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が、一番困っている事や不安な点などについて、気持ちがスムーズに話せる雰囲気努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所判定の時点で、医師・看護師・ケアマネジャー・介護職員を交えた、さまざまな職種にて検討し、本人とご家族が一番、必要としている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の限界を見据えつつ、出来る事を探りながら応援する《行動支援》事を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時や家族会等で、ご利用者・ご家族を交えた共通の話題で、居心地良く過ごしてもらえる様な雰囲気を作っている。また、本人にとっての幸せは何かを、常に家族と話し合う機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所前のディサービス、ショートスティ利用時の馴染みの職員の面会であったり、ご家族の協力の下、充実した外出が多い。また、地域の方と馴染みの関係となり、散歩中での会話を楽しまれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・協働作業を行う事でご利用者同士の関係も良く、ご利用者同士での、助け合いの場面も多くみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご利用者の退所後も、ご家族からの便りや電話での介護相談を受ける機会が多くあり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・面会の度に、ご家族や本人からの聞き取りを行っている。その時、その時の会話や表情に注視し、気付きがあれば共有ミーティングノートを活用し、少しでも本人の希望、意向に沿える様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントシートやご家族からの聞き取り情報、入所してからは、ご本人の生活サイクルに合わせたケアを行う様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・申し送りや共有ミーティングノート、職員会議を活用しながら、ご利用者の暮らしの気付きや変化を職員間で情報共有し、状況に応じた対応を行うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご利用者が、楽しく活躍出来る場面となる様、できるだけ具体的な計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録や情報を下に、カンファレンスを行い現状に即した介護計画か、どうかを見極めている。また、本人にとって楽しいと思う事があった場面などの情報を共有し、次の計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族の意向に出来るだけ応じれる様、事業所内の連携にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・外部講師の音楽療法やご家族の紹介による演奏会、地域の慰問の受け入れを積極的に行っている。それらに関わりを持つ事で、生きがいや楽しみを持ってもらえるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・週1回の訪問看護も導入した事で、かかりつけ医と事業所の関係は良好である。特変があれば、医師から家族へ直接、電話ないし面談を行っている事で、家族からの信頼も得られている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護師とは、絶えず情報交換を行い、ご利用者の気付きや不調な時には素早く対応してもらっている。訪問看護師には、どんな些細な事でも相談できる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・管理者が関係者に対して、相談・情報交換を行い早期退院が出来る様、面会を兼ねて病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化ならびに終末期に対する施設の考え方(指針)を家族へ書面の説明と同意を得た上で、本人にとっての最善の方法を検討させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設独自の緊急マニュアルを各職員が周知できる様、マニュアルの流れを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月「防災について」の会議を開催し、運営推進会議でも議題案として地域やご家族からの助言を頂きながら、グループホーム単体の避難訓練を実施する事ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご利用者の思いを理解した関わり方を職員間で共有し、何事にも笑顔で接し、本人の誇りや尊厳を損ねない様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・強制や決めつけはせず、何かにつけご利用者を選んでもらえる様、心がけている。 ・常にコミュニケーションを図り、本人の意思や要望が分かる様、観察に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日の流れとしては、決まっているが、ご利用者の生活リズムに合わせた、声かけや誘導を行っている。外出には、ご利用者の希望に沿った場所を計画するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・同じ服を選ばない様に工夫している。 ・ご利用者の要望によっては、行事やイベントなどには化粧をするなど、お洒落が楽しめる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご利用者の活躍できる場として、簡単な食事の仕度や片付けを職員の見守りの中で、行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事チェック表を用い、その日に不足しているであろう水分や栄養バランスなどは、その日の内に摂取できるように、補助食品や嗜好食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・外出後や毎食後の嗽は欠かさず行っている。 ・定期的な歯科往診による治療や口腔ケアチェック指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の失敗があっても、安易に紙パンツを使用せず(金銭負担を考慮)職員の定期的な声掛け誘導にて、トイレでの排泄を基本としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便チェックを欠かさず行い、便通を促す為の食事メニューの取り入れ等、便秘予防に努めている。また、朝・夕の体操を行う事で失禁の予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・無理強いせず、気分に合わせた入浴を勧める様にしている。長い拒否が続く場合には、散歩や話題を変えるなどし、本人の気分を変えるのを待ってから入浴を促すようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・廊下に設けたソファは、庭を眺めながらの日光浴が出来る様に工夫している。 ・居室内での定期的な休息を取る事で、精神的な安定や身体的な安楽を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・訪問看護師と介護士の共通記録を元に服薬支援をしている。 ・病状や状態変化がある時には、すぐさま訪看と医師への報告・連絡・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者が、どんな場面で、どんな時に輝いているのかの情報共有に努め、本人の役割や活躍出来る場面が楽しみ事になる様、行動支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族協力の下での外出は充実している。 ・ご利用者に行きたい場所の聞き取りを行う等出来るだけ要望に沿った場所に出掛けられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には管理者が管理しているが、家族様ので了承を頂いている方のみ利用者の自己責任で、所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話使用は、いつでも可能である。 ・ご利用者が作成した年賀状を送ったり、家族からの季節の手紙を楽しみにされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご利用者の思い入れのある調度品を持ち込む事で、安心感を持ってもらえるような居室にしている。また、庭木の手入れ、玄関、リビング、居室内には、なるべく季節が分かる花を飾る様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング以外に玄関・廊下または、庭に多数のソファや椅子を設置している。利用者同士が、思い思いの場所で寛ぎながら会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご利用者の馴染み家具を持ち込み、本人の生活パターンを知っている、ご家族に居室のセッティングをしてもらっている。 ・居室から庭への出入りが自由であり利用者自身のガーデニングを楽しまれている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレや風呂場には(明記した暖簾)を掛けて場所が分かる様にしている。 ・中庭を通じてどこからでも居室やリビングが見渡せるようになっている。		